埼玉浮き城プロバスクラブ

2021,5,21 発行

No. 119

創立 2011年6月17日
SAITAMA UKISHIRO
JAPAN

例 会 日　毎月第３金曜日　ホテル ガーデンパレス　熊谷市佐谷田 3248 TEL048-525-7777
事 務 局　〒348-0041　埼玉県羽生市上新郷 5642-2　TEL 048-562-5556　FAX 048-562-5556
会　長　須郷　　隆　　副会長　木島　隆夫　　幹　事　澤田　良一　　情報委員長　椎橋　俊夫

本 日 の プ ロ グ ラ ム

第 120 回 通常例会

国歌斉唱・プロバスソング斉唱 (プロバス賛歌)
会長挨拶　会長　須郷　　隆
幹事報告　副会長　木島　隆夫
委員会報告・同好会報告
創立 10 周年記念式典報告　実行委員長　高橋　晋作
卓　話「ポーラとの出会い」　柿沼　孝枝
ハッピーボックス披露　例会委員　田口覇洲男
閉会　例会副委員長　武笠　　勇

＜第 119 回例会出席率 会員 34･出席 29･出席率 85.29%＞
（会員 29 名 家族 8 名 行田 RC3 名 関係者 2 名　合計 42 名）

会 長 ス ピ ー チ

会　長　須　郷　　隆

皆様こんにちは

創立 10 周年記念式典は、厳しいコロナ禍が続く中ではありましたが 4 月 18 日（日）ホテルガーデンパレス熊谷、にて予定通り開催する事が出来ました。これはひとえに会員の皆様のご支援･ご協力のお蔭であり心より御礼申し上げます。

4 月 18 日は、前日来の雨も止み当クラブの 10 周年記念式典（創立 10 年のつどい）を祝うかのような素晴らしい晴天となりました。

コロナ対策の為、３室を使用し、式典・食事会は教室方式の前向き座席、ピアノ演奏会はゆったり間隔を取ったやはり全て前向きの自由席にて執り行いましたが、滞りなく終了出来ましたのは皆様のご協力のお蔭であり、改めまして深く感謝申し上げます。

また、４月末現在ではありますが、ご出席されました方々は皆様ご健勝のご様子にて安堵致しております。

当初予定致しておりました式典の３事業の内、さわやかコンサートは中止致しましたので、これからは記念誌の纏め作業に入ります。

記念誌は、創立以来今日までの歴史を記録すると共に皆様のお考えを掲載する事により、当クラブの今後の発展の重要な資料になるものと思っております。

引き続きまして皆様のご支援・ご協力の程お願い申し上げます。

さて、５月の例会は本来移動例会が毎年計画され、予定通り実行されて参りました。然しながら、新型コロナウイルスの感染拡大は、年明けと共に更に勢いを増し、残念ながら今回も昨秋に続き移動例会は中止せざるを得なくなりました。通常例会も１・２月は緊急事態宣言下でやむなく中止致しました。

４月に入り英国型等の変異株が勢いを増し、皆様良くご承知の通り、東京・大阪・埼玉等に「まん延防止重点措置」が適用されました。
また、下旬には、３度目となる緊急事態宣言が東京・大阪・兵庫等に発令されました。
かかる状況の中、通常例会とはなりましたが細心の注意と対策により例会が開催出来ます事は誠に幸いな事と思っております。

５月中旬よりは、行田市でも高齢者を対象としたワクチン接種が始まるとの事です。厳しいコロナ禍がワクチン接種により収束に向かい、何の拘束もない社会生活が一日でも早く来る事を切に願っております。

本年はまた、当クラブにとって新しい 10 年がスタートする重要な年でもあります。

これまでの 10 年間の活動を振り返えると共に、創立時の理念や目的を再認識し活動していく事が、更なる発展・充実に繋がって行くものと思っております。

どうか皆様、健康には充分留意され、これからもクラブ生活を楽しむと共に地域に寄与できる活動を行っていきましょう。
ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

埼玉浮き城プロバスクラブ　**創立10周年のつどい**　令和３年５月18日 於:ホテルガーデンパレス

皆様こんにちは！

懸念されておりました天候も、昨日の雨が全て流し去り、本日は素晴らしい式典日和となりました。皆様のご精進のお蔭であり感謝申し上げます。

埼玉浮き城プロバスクラブは、平成23年（2011年）6月17日行田ロータリークラブの物心両面に亘るご支援を得て創立され、本年10周年を迎える事になりました。

新型コロナウイルスの感染拡大が未だ続き、厳しい状況の中にありますが、行田ロータリークラブより鴨田会長を始め倉持様・蔭山様・山本様のご臨席を頂き、ここに埼玉浮き城プロバスクラブ創立10周年記念式典を、会員並びにご家族の皆様と共に祝える事が出来ます事は誠に喜ばしく存じております。と同時に、開催出来ました事に安堵致しております。

本来であれば、創立以来今日まで多大なご支援・ご指導を賜わりました関係者の方々のご臨席を仰ぎ盛大に記念式典を執り行う計画でありましたが、厳しいコロナ禍が続く中、残念ながら規模を縮小し会員並びにご家族そして創立時種々のご配慮を頂きました行田ロータリークラブの方々のみの式典となった次第であります。

創立以来今日までの10年間、大規模な自然災害は毎年発生し、経済・社会活動に大きな影響を及ぼしてきました。そうした中、当クラブが年々充実し発展する事が出来ましたのは、これはひとえに会員の皆様の弛まぬご努力の賜物であり、また創立以来種々のご高配・ご支援を賜りました関係機関の方々のお蔭があってこそと存じております。

改めまして会員の皆様やご支援頂きました関係各位の皆様に深く感謝申し上げますと共に厚く御礼申し上げます。

さて、創立しました平成23年は、皆様良くご承知の通り、３月11日　岩手・宮城・福島県を始め東北・関東地方にかけて人的にも物的にも甚大な被害を齎した巨大地震による東日本大震災が発生致しました。巨大地震による大津波は、また、東京電力福島第１原子力発電所を襲い炉心のメルトダウンという未曽有の事故を引き起こしました。

東日本大震災は、今なお多くの方々の精神や生活に大きな影響を及ぼしており、その損失は計り知れないものがあります。

このように国全体が混乱し、経済活動や社会活動が未だ頓挫していた３か月後の６月17日、我がクラブは、

・会員相互が親睦と交流を重ね、多種多様な活動に積極的に参加して行く事、
・蓄積したキャリアに基づく奉仕活動等を通じて社会に恩返ししていく事

等を目的に設立されました。

爾来今日まで新しい仲間も加わり、また家族を含めた親睦と交流を重ねてきた結果、会員相互の理解と信頼は一段と深まり、クラブは年々充実し発展して参りました。

創立５周年には、記念事業として、埼玉県警察音楽隊の協力を得て「さわやかコンサート」を開催、以後毎年行ってきましたが、昨年と今年はコロナ禍の為開催出来ませんでした。ワクチン接種も本格化し始めたので来年度には是非開催出来ます事を大いに期待し、祈っているところであります。

先ほども申し上げましたが、平成23年に発生しました東日本大震災以後も、熊本地震や地球温暖化による大規模な水害や風災害が、毎年日本各地に甚大な被害を齎して来ました。

これらの自然災害に加え、昨年より人的災害ともいえる新型コロナウイルスの感染拡大が世界を席巻し、パンデミックの状態は今なお続いております。

わが国でも緊急事態宣言が２度発令されましたが、解除後はまた感染が拡大するリバウンドが続いております。本年に入り英国型等いくつかの変異株ウイルスが勢いを増し、今月に入り大阪・兵庫・東京等に「まん延防止等重点措置」が適用されましたが、20日には埼玉県も神奈川・千葉両県と共に同措置が適用されることになりました。

ワクチン接種が始まりましたが、この状況が何時終息に向かうのか現時点では全く予測できない状態です。

このような状況の中で創立10周年を迎えました本年は、また新たなスタートを切る重要な年と認識しております。

クラブが持続的に発展していく為には、申すまでもありませんが、地域社会に少しでも寄与できる活動をすることにより、地域の皆様のご理解とご支援を得ていく事が最も重要な事と思っております。

感染拡大がやまないコロナ禍ではありますが、改めて創立の理念と目的を再認識し、地域社会に寄与できる活動を行っていきたいと思っております。

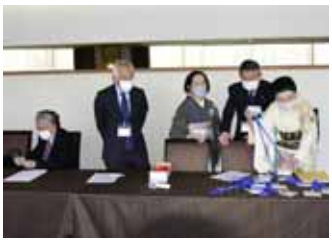
どうか皆様これからもご支援・ご協力並びにご指導の程よろしくお願い申し上げます。

また、これまで賜りましたご支援・ご協力並びにご鞭撻に対し改めまして心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。

式典・演奏会　式次第

開式宣言　司　会　鈴木　民儀
物故者に対する弔意- 黙祷
開式の辞　実行委員長　髙橋　晋作
国歌斉唱
プロバス賛歌斉唱
会長挨拶　会　長　須郷　　隆
プロバスの意義　顧　問　渡邉　栄一
来賓紹介　監　事　小山　　博
祝　　辞　行田ローターリークラブ　蔭山　好信様
　　行田ローターリークラブ　山本　憲作様
コロナ禍の「10周年事業について」　副会長　木島　隆夫
未来に向かうプロバスクラブ　顧　問　小島　敏男
創立 10 周年記念の事業について
　「さわやかコンサート」について　元会長　畠山　恒雄
　「創立 10 周年記念誌」について　編集委員　椎橋　俊夫
　「創立 10 周年記念品」について　顧　問　渡邉　栄一
会 員 表 彰　会　長　須郷　　隆
閉式の辞　会　員　大澤　由子
閉式宣言　司　会　鈴木　民儀
小 休 止
昼　食　会
ピアノリサイタル
ピアノ演奏会開会宣言　司　会　木島　隆夫
演奏者紹介　顧　問　小島　敏男
演　奏　ピアニスト　森　田　義　史
謝　　辞　会　長　須郷　　隆
花束贈呈　会　員　柿沼　孝枝
演奏会閉会宣言　司　会　木島　隆夫



司会 鈴木民儀会員

物故者に黙祷

開式の辞　高橋晋作実行委員長

会長挨拶　須郷　　隆会長

来賓紹介　小山　博監事

プロバスの意義 渡邉　栄一顧問

コロナ禍の 10 周年事業　木島隆夫副会長

未来に向かうプロバス　小島敏男顧問

祝辞　行田 RC 蔭山好信様

祝辞　行田 RC 山本憲作様

さわやかコンサートについて 畠山恒雄元会長

会 員 表 彰

清 水 孝 男 会 員
石 塚 喜 助 会 員
安 部 節 子 会 員
大 澤 由 子 会 員
椎 橋 俊 夫 会 員

閉式の辞　大澤由子会員

ピアノリサイタル

演奏 森 田 義 史

会　員　投　稿

ー未来を担うテクノロジストー

赤　松　　明

我が国の生産年齢人口（15 歳～ 64 歳）は、年々減少を続け 2060 年には約 4500 万人に大きく減少すると見込まれています。国内のものづくり産業の空洞化、団塊世代の定年退職による産業技術者の不足など、ものづくりを基盤とする産業の重要性の見直しにより、1999 年には「ものづくり基盤技術振興基本法」が制定されました。そして、「ものづくり基盤技術基本計画」に沿ってものつくり大学への取り組みの支援と人材育成機能の積極的活用のために、国と地元自治体（埼玉県・行田市）及び企業の支援のもと 2001 年に本学は開学し、今年 2021 年には開学 20 周年を迎えることができました。本学の和名「ものつくり大学」は、哲学者の故梅原　猛 (ものつくり大学初代総長) 先生の命名であり、英名「Institute of Technologists」は、社会形態学者であった故ピーター・F・ドラッガー（ドラッカー）によって名付けられました。このTechnologists（テクノロジスト）は、ものづくりのベースとなる知識労働と肉体労働の両方を行える人を指し、開学以来　約 4000 人余りのテクノロジストを社会に輩出しています。

ところで、ドラッカーは『断絶の時代』の中で、「今日求められているものは、知識の裏づけのもとに技能を習得しつづける者である。純粋に理論的な者は少数で良い。しかし、技能の基盤として理論を使える者は無数に必要とされる。それは技能者と言うよりも、テクノロジストである。若者のなかでも最も有用な者、最も知的な資質に恵まれた者、最も聡明な者にこそ、知識に裏づけられた技能を使うテクノロジストとしての能力を持ってほしい。」と述べ、さらに、わが国が先進国の一員であり続けたいのならば、ものづくりから離れるなど、もってのほかである。純粋の知識労働者を持つだけでは、最先端を進むことは不可能であるために、あらゆる先進国と新興国においてこのテクノロジストのための教育機関が急速に増えていく」と述べています。

一方、少子高齢化と人口減少により、地域の雇用を支える産業の多様化が進み、特定の産業による牽引力が低下する中、他地域との比較優位を生む可能性を秘めた地域固有の地域資源が注目され始めました。さらに、2016 年 12 月には「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について次の基本目標（①地方に仕事をつくり、安心して働けるようにする　②地方への新しいひとの流れをつくる　③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる　④時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する）が閣議決定され、地方創生のためには、まず地域固有の地域資源に着目し、若い世代に安心して働ける仕事の創生が必要であるとされました。

そこで、本学の地域資源の活用の一例として、2020 年度に締結しました「３市（行田市、加須市、羽生市）、１商工会議所（行田）、３商工会（加須市商工会、羽生市商工会及び南河原商工会）、３大学（埼玉純真短期大学、平成国際大学、ものつくり大学）の連携協力協定」に基づき、近隣地域と連携強化及び地域貢献（埼北未来プロジェクト）があります。また、本年度は、開学 20 周年記念特別講演やものづくり教室、子供大学など地域連携事業を継続して実施することにしています。このような、地域と連携し地域資源を活用した地域創生に係る成果から、テクノロジストが地域のものづくりの未来を担う人材として期待され、テクノロジストを育成する本学の社会的責任は、益々重くなると考えています。埼玉浮城プロバスクラブの皆様方には、今後とも絶大な支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次回例会案内　６月 18 日（金）第 121 回創立記念例会　　卓　話　「未　定」　小島　敏男会員

埼玉浮き城プロバスクラブ　ブログ　創立 10 周年記念式典　会報№ 118　更新しました。